

# 視察研修 成

視察日 7月27日から29日

### 【視察地】

1. 岐阜県美濃加茂市
2. 岐阜県郡上市
3. 三重県鳥羽市

### 【視察の目的】

農産物処理加工施設の運営と商品開発、スキー場の経営安定化のための方策をどのように考えるか、道の駅の健全経営と果たす役割、新しい観光施策であるエコツアーの学習など、民間企業の先進的な事例を参考にして本町の問題点を考える。

岐阜県郡上市

道の駅  
古今伝授の里  
やまと

道の駅は温泉、朝市、くつろぎ広場、フィールドミュージアムの複合的施設。  
運営は第三セクターに委託し、指定管理料はゼロで、黒字経営になっている。ただし、公益部門の管理経費は、

30〜50%の範囲内で市の予算から支出している。岐阜県が実施した「尋ねてみたい道の駅」「一番良かった道の駅」コンテストで1位になるなど外部からも高い評価を受けている。

三重県鳥羽市

エコツアー  
海島遊民くらぶ

これからの観光・リゾートのキーワードは「地域らしさ」と「ならでは」の追求であり、お客様と自然資源、住民、ガイドの4者がうまく連携をしなければこの目標は達成できない。

海島遊民くらぶの目

的は、①素敵な自分を発見する旅、大人を休む日、大人になる日。  
②自然も人も、知らない何かの発見を通して自分自身の素敵さを発見する。  
最後の結びは「観光から感幸へ」だった。

### 【まとめ】

捨てる所(物)に価値があると、行政では気がつかないアイデアをふんだんに取り入れ地域と密着した八尋産業。スキー客の減少を考え、夏時期の有効利用を一足先に実行したダイナランドスキー場。道の駅「古今伝授の里 やまと」は、地域の活性化の一役を担っている。地元でUターンして、すばらしさを再発見した「海島遊民くらぶ」。本町には磨けば光る資源が多数存在する。それを点として存在させるのではなく、線で結び幅広い活用が望まれる。そのアイデアを視察研修で感じ取ることができた。